



ROTARY CLUB OF

NARA - WEST

DISTRICT WEEKLY BULLETIN
2650 No. 2535

2025. 2. 20

創立 1969年(昭和44年)12月13日
例会日 毎週木曜日18:00より
事務所 〒630-8001 奈良市法華寺町254番地
例会場 奈良ロイヤルホテル内
TEL 0742-34-1131 FAX 0742-30-2000

2024~2025年度
国際ロータリーのテーマ

2024~2025年度
地区のスローガン



持続可能なロータリーに！ 共に学び、共に行動
Make Rotary Sustainable! Learn together Act together



国際ロータリー会長
ステファニーA.アーチック

RI第2650地区ガバナー
中本 勝

霊山寺 梅
(写真提供: 東山理事)

会 長 佐川 寛一	副 会 長 安井 清悟	会長エレクト 杉村 仁	幹 事 木村 和弘	会 計 松中 隆
会場監督 岡崎 義幸	理 事 寺田 信弘	理 事 東山 光秀	理 事 井上 直治	理 事 杉村 仁
理 事 川崎 祥記	会報委員長 東山 光秀			

今月は 平和と紛争予防・紛争解決 月間です

第23回(2535回)例会プログラム令和7年2月20日(木)

1. 開会宣言 点鐘
2. ソング 「四つのテスト」
3. 来訪者紹介
4. 出席報告
5. 会長の時間
6. ニコニコ報告
7. 委員会報告・幹事報告
8. 卓話:「RLIについて」
地区RLI委員会 副委員長 林 博之 様
9. 閉会宣言 点鐘

第22回 (2534回) 例会報告 2025. 2. 6

ソング

「君が代」「奉仕の理想」

来訪者紹介

中尾 幸様 竹の子文庫 主宰
孫 宇彤さん 米山奨学生
Natalia Figueiredo SACONEさん 青少年交換受入学生

出席報告

	会員数	出席計算 免除会員数	出席会員数	欠席者数	出席率
通 算 2534 回	23	1/2	15/21	6	72.7%
通算2532回修正	23	2/2	18/21	3	87.0%

会長の時間 (安井副会長)

今日は佐川会長が歯科医師会の関係で、どうしても18時半からしか来れないとの事で、副会長を拝命いたします。副会長は会長不在の時の代理でございまして、このまま一年をつつがなく過ごせるのかと思っておりましたら、初めて出番が回ってきた次第です。

さて、2月に入りました。2月は「平和と紛争予防月間」です。紛争と言いますとやっぱり頭に浮かぶのはロシアとウクライナの戦争です。長々と2年を過ぎてても終結しないんですが、世界中に影響が出ています。私たちの周りを見ると一番影響が出ているのがガソリンや電気代などではないでしょうか。元々ロシアからヨーロッパに輸出されていた石油が止められたとたん、日本でもガソリンが急激に上がりました。180円くらいは普通で200円オーバーのガソリンスタンドもしばしば見かけるようになりました。奈良西でも運輸を生業にされている田中会員の奈良交通や下村会員の会社など、実際にガソリンを売っている加藤会員の会社など、めちゃくちゃ影響を受けておられるかと推察いたします。1Lが100円の時代が懐かしいと思います。話を戻しますと、この紛争はアメリカのトランプ政権がのりだしたら何とかなるのでしょうか。真意のほどは定かではありませんが、アメリカでは民主党を支援する企業の中には武器産業があると聞いています。だから民主党政権の時は武器輸出が盛んに行われるとか。トランプ政権は共和党なので武器輸出には消極的な為、紛争地域に武器が無くなったら自然と紛争は収まるのかと思えます。確かに前のトランプ政権の時は日本に対しても、「自分の国は自分で守れ」に近い事を言って、自衛隊の機能がかなり強化されたようにも思えます。日本国民の中でも「自衛隊」って思っている人は少なく、多くの国民は「自衛隊」は「軍隊」と感じていると思われれます。やっぱり強力な武器を持っておかなければ平和な世の中は続かないのでしょうか。少し疑問を感じますがこれが現実なんでしょう。これからも平和を守るための「自衛隊」であって欲しいものです。

平和と紛争予防月間、どうしたら紛争が防げるのかロータリアンとして考えていく月にして参りましょう。これで会長の時間とさせていただきます。ありがとうございました。

植野洋志P会長、松中隆会員、小松玲子会員、木村和弘会員

本日の卓話、中尾幸さんよろしく願いいたします。

東山光秀会員、

星祭り節分法要が無事終わりニコニコ。



「58年間、子供と本のことをして感じたこと」

竹の子文庫主宰 中尾 幸様



会員の誕生祝



■2月生まれ■

杉村 仁P会長	2月6日生まれ
安井 清悟P会長	2月11日生まれ
川上 顕慶会員	2月16日生まれ

皆様おめでとうございます！

幹事報告 (木村幹事)

例会変更情報は、入り口横に掲示しておりますのでご確認ください。

子ども文庫は自宅を開放して蔵書を貸し出す小さな図書室。(竹の子文庫しおり参照)

なぜ私が文庫を始めたか。父が本好きで、3人の娘のプレゼントは本だった。もちろん他のプレゼントももらったが、何一つ覚えていない。本はくり返し何度も読むので心に残っている。

私の子供の頃は、図書館は遠くにあり、また子供が気軽に本の利用できる所ではなかった。

大学の時、憧れの石井桃子先生のかつら文庫に行った。見た後、机の前に向き合って座り、「何が聞きたいの」と言われ、頭が真っ白になった。やっと3つのことを伺った。幼稚園の入園祝いに絵本を贈ろうと買いに行ったら見たことも無い、素晴らしい絵本が山のようにあった。1時間以上かけて選んだのが、「ぐりとぐら」と「もりのなか」。友達に、「森の中は白黒だから小さい子にはどうかしら？」と言われた話を話すと、石井先生は開口一番「あなたは良い本を選びましたね」と言われた。そして、絵本には色がついているかは問題では無いと、絵本について話してくださった。

次に、アメリカで図書館学の事を学び、アメリカの児童室で働いてこられた松岡享子さんのところに行きたいというと、「手紙を出しなさい。往復ハガキでね。」と言われた。私はこれから世の中に出ていく若い学生に、人に頼むときの心構えを教えて頂いたと思った。そして松岡享子さんは素晴らしい人で、2年前に亡くなられる迄、公私ともにずっと導いてくださった。

次は私もいつか文庫を開きたいと言うと、厳しい顔で「私の本を読んで、沢山の人が文庫を始めたけれど、打ち上げ花火のようにすぐに止めてしまう人もいます。世間様に申し訳ない。するなら10年続ける覚悟でなさい。」と言われた。

そして松岡さんが文庫を始められたとき、1年間お手伝いさせていただき、カードの書き方からすべて教えて頂いた。その後、間崎ルリ子さん、私が選んだ「もりのなか」を訳した方の文庫をやはり最初から手伝わせて頂いた。背中を押されるようにして、老後の夢と思っていた私の文庫を始めることになった。

家族で話し合い、私の文庫でなく家族の文庫とした。母が車1台買うことを止めれば、文庫はできる。「車もガソリン代、税金もいるし、文庫も部屋を用意し、本を置くだけではすまない。新しい本も次々買わなくてははいけないし、付属品もいろいろとかかる。」と言い、父がお金を出してくれることになった。

1970年4月に西宮の実家に竹の子文庫を開いた。ロータリークラブと同じで、今年55周年を迎える。文庫にある本は全て心を込めて選んだ本。子どもたちは自由に手に取って読んだり借りて帰る。返しに来た時もこちらから感想は聞かない。大人になった人に文庫の思い出を聞くと、共通した思い出は、「家でも学校でもないところに、親でも先生でもない信頼できる大人がいて、本が沢山あって安心していられる居場所だった。」と言う。

文庫では、「おはなしの時間」を大切にしている。10歳位迄は聞く力の方が発達している。読んでもらっていた時はお話がスーッと入ってきたのに、自分で読むと壁がある。おはなしの時間は、お話は覚えて語る。一度人の心の中に入って消化され、出てきた話は味わい深い。

文庫でも学校でも一番人気があるのは、昔話。昔話には人類の知恵が詰まっている。人の願いや希望、ユーモアや笑い、悲しみもある。

例えばアイルランドの昔話「三つの願い」。貧乏な若者が妻と、目の見えない母と、年取った父と暮らしていた。ある日森の中で小人に会う。小人は願いの一つ叶えてあげようと言う。若者が急には決められないと言うと、「明日同じ時間にこの場所に来るように。」と言って消えてしまう。若者は妻に聞くと「結婚して10年以上になるけれど、子供がいない。ぜひ私達に赤ちゃんが欲しい」と言う。母親に聞くと、「私の目がもう一度見えるようにお願いしておくれ。今だと朝だか夜だかわからない」という。父親に聞くと「金だ、金だ、金だ」と言う。若者は一晩考えて、「子供が欲しい。母親の目が見えるようになってほしい。お金が欲しい。」の三つを具体的にハッキリと一つにしてお願いする。会場の皆さんに考えて頂いたが、時間もなく答えが出なかった。

昔の人の知恵はどう言っているかという、「年取った私の母が金のゆりかごに寝ている孫を見ることが出来ますように！」昔話は難問を見事に解決している。

なぜ絵本を選ばなくてははいけないか。本当によくできた絵本は心の栄養になる。人工甘味料を使ったお菓子を子供に与えたくないように、読み終わったらホッとため息の出るような絵本を与えたい。

- ・自分の好きな著者、画家を知る。同じ人が文も絵も描く。同じコンビで何冊も出す。絵と文がぴったり合う。
- ・30年以上出版されている。子供の時に読んでもらった本が親になって読んであげられる。

「もりのなか」 マリー・ホール・エッツ 文・絵1944年作 日本1963年出版

「ぐりとぐら」 姉が文で、妹が絵で、何冊も出している1963年出版

「ちいさなねこ」 石井桃子 日常的な絵本小さな子供にわかる。行って帰りし物語。最初の頁と最後の頁が同じ場所

「よあけ」 シュルヴィッツ 自分が経験しにくい世界を絵本で体験する。祖父が孫をキャンプに連れて行き、夜明けを体験させる。

「やさいのおなか」 かがくえほん 身近な野菜を半分に切って見せる。

「それほんとう？」 松岡享子 言葉あそび、詩、リズムのある楽しさを聞いて味わう。

実は私は歯医者さんの集まりだと思っていた。本を紹介してほしいと言われ、歯医者さんの待合室に置くのだと思った。他の医院より子供は不安と恐怖でいっぱい。そこで心がホッとするような楽しい絵本、勇気の出る絵本を選んだ。



Rotary 
Club of Nara-West

第24回（通算2536回）例会予告
例会日 令和7年3月6日（木）

第10回理事会

卓話:「新入会員卓話」

杉浦 剛 会員

◎2月27日は休会です